

高専通信 | vol.153

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE



国際交流EIT座談会

高専祭

高専ロボコン

工場見学旅行 / 総合研修旅行

インターンシップQ&A

2020年3月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443 苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係

[URL] <https://www.tomakomai-ct.ac.jp> [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

国際交流EIT座談会



2019年8月30日(金)～9月15日(日)17日間、学術交流協定校であるニュージーランドEASTERN INSTITUTE OF TECHNOLOGY, HAWKE'S BAY(EIT) への研修が行われました。

その参加者18名のうち、有志7名で座談会を行いました。

3年1組: 江州 晴彦 3年2組: 小野寺日菜 3年3組: 浅野 美月 3年4組: 工藤 真咲
3年2組: 森 亮太朗 3年3組: 山下 響生 3年4組: 仲川 真生

引率教員: 中村 嘉彦 准教授 聞き手: 石川 愛弓 特命助教

今回、研修に参加しようと思ったきっかけは？

森: 僕はフットボールをやっていて、外国人の方に商品の場所や道を聞かれることが多かったのですが、あまり自分の思うことがスラスラ言えなくて、それを言えるようになりたいと思って応募しました。

江州: 僕は今まで6年間勉強してきた英語がどのくらい通じるのかなと思って参加しました。でも、やはり国が違つて難しいんだな、勉強不足だなと思って帰ってきました。

工藤: 私はいいことが参加していたのでその話を聞いたり、海外に行きたかったのでもいい機会だなと思って参加しました。

浅野: 私の兄もEIT研修に行ったことがあって、その写真を見せてもらった。それがすごく楽しそうで、兄からも絶対行きたい方がいいって勧められたのがきっかけです。

山下: 夏休みの予定を埋めるためと、楽しそうだなと思って応募しました。

仲川: 最初のきっかけは2個上の先輩にEIT研修を勧められたので、研修について調べたところ、参加することで自分の力になるのかなと思って参加しました。

小野寺: 1年生の時、先輩がEIT研修に行っていて、その人に英語が好きな方に行きたい方がいって言われたのがきっかけです。

今回の研修を振り返って特に印象に残っていることは？

森: 毎日公園、アンダーソンパークに行つたことかな。

仲川: そうだね。遊具で日が暮れるまで遊んだね。

江州: 参加メンバーほぼ全員で遊んだよね。トロンボリンとかで。

仲川: EITの学生とは遊ぶまではいなかったね。でも、日本人の学生がEITに短期留学していて、その人が帰る前日はみんなでスーパーの街に買い物に行きました。

授業などで印象に残っているものは？

小野寺: 一番楽しかった授業は、2つのグループに分かれて、先生がホワイトボードに書いた単語を、その単語を使わずに英語で説明して連想させるゲームです。勝ったチームはチョコレートを持ち帰りました。私は負けました。

仲川: 僕はスラップ(俗語)の授業が一番面白かったです。全員、あー

仲川: cup of teaのcup ofをcuppaとか、BarbequeをBarbieとかを習いました。

浅野: 店員さんにLovely choiceとよく言われました。

言葉以外で研修に参加して得られたと思うことは？

小野寺: コミュニケーション能力です。メンタルが強くなりました。伝わらなくてもこもりあふ発言するみたいなの。

全員: あー

森: なんだかんだいけるなと思って思いました。やろうと思えば何とかなります。

江州: 初対面の人と話す時、日本人同士でも若干緊張しますが、言葉も通じないこの国かも知れない人たちにいきなり自己紹介することになっても案外出来るもんだなって、チャレンジが大事だと思いました。

小野寺: 3日目くらいで英語が聞き取れるようになりました。最初、耳も緊張してたんだな。

森: 最初の空港では本音を言っているかわからなかったです。

江州: (空港からの車の中で) 海の景色が素晴らしいねって伝えただけで、伝わらなくて。ラジオも止めてくれたんですけど、それでも伝わらなくて「すみません」ってなりました。

ホームステイ先について覚えてることや、辛かったこと、楽しかったことは？

小野寺: 私のホームステイ先は人暮らしのおばあちゃんの家で、対だったの、知らない人二人で急に生活することになって、言葉も通じないしどうするんだってこれって最初は思いました。最初、言い方が強くて怒つてのかなって思ってたけど、ききとってただで、怒ってるわけじゃないんだって後から気付いて、それからすぐに仲良くなりました。最後は、また会いに行くからって約束もしやいました。

森: 山下: 僕たちのホームステイ先はママがなかったです。あと、僕たちの家だけみんなの家と違う街で、しかもゴルフ場でした。

山下: もちろんすごく楽しかったですけど、事前に教えてほしかったですね。

森: みんなと遊んでたら帰るのに1時間半かかるっていう学校からみんなの家の方向と真逆なんですよ。僕たちだけ天気予報が違ったんですよ。

山下: あと歩道がなかったです。街灯も。

森: 夜ご飯を各自で食べるようになった日にマクドナルドに行つて、その帰り道に野犬に追いかけて、本当に怖かったです。

山下: 殺されるかと思ったし死ぬかと思いました。

浅野: INZED「今、襲われてる」って実況してきたよね。

ホームステイ先の食事や生活はどうだった？

仲川: 最高でした。

江州: おいしかったんですけど、そもそも主食が違つたのでお米が食べなくなつて。食卓にお米が出た時にずいぶんショックがすごくて、「I was a bit sad」みたいなことを言っちゃった。その日から毎日お米が出てきて、タイ米なんですけど、カレーも一緒に出てきて、絶対おいしいやつだったんですけど、食べたらめっちゃ不味くて。でも他は美味しかったです。

森: 美味しかったけど量が多かったです。

小野寺: 初日に無理しないでって言われたから、減らして食べて、んだらけは食べれないって思われて、一人だけすごい量が少なかったです。

江州: あと、残したら庭に投げるって言われてました。

仲川: 俺も朝のパンとか残したものは窓からポイと投げられてました。

浅野: うちがバケツがあって、リサイクルするから残したら絶対ここに投入して言われました。ニュージーランドはゴミの分別が結構ちゃんとしてるんだなと思ってたら、ある朝野鳥に人糞とかをあげてる人を見て、日本は白鳥に餌をあげないでくださいって書いてあったりするけど、むしろこちらはそれで生きてるんだってびっくりしました。

日本の自分の生活と違うなと思ったことは？

山下: リンゴをまるごと食べることも。切らないで丸かじりでした。初日に散歩してくるって言うたらりんごをふいてはいーおやつって渡されました。食べたあとのゴミはポイって。浅野: ドライヤーがない家が多くなつた？みんなびちょびちのまだったです。

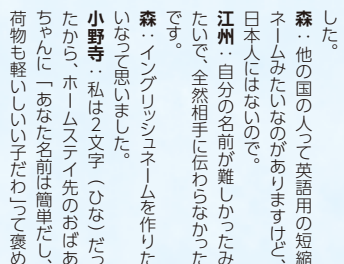
仲川: 体重計がマイナス30kgかマイナス40kgくらいに設定されて、僕らが乗ったら35kgとか40kgって表示されました。

浅野: 暖房が各部屋になかった。

小野寺: 湯たんぽが救世主でした。

浅野: 私は兄から寒いって聞いてたけどなめてました。リビングには新ストーブがあって暖かいんですけど、各部屋にはないから毛布を五枚くらいひいて過ごしてました。

森: 僕たちは各部屋にストーブがあって、ベッドにもヒーターがついて、電気毛布までくれて、逆に暑かったです。



工藤…ホームステイ先の人は受け入れてくれて優しいのは確かなんですけど、こっちはお客さんとしてあがり込んでるわけだから日本人としての意識もあって、申し訳なさとかを感じたり、そういうのを気にしちゃう人は最初の週間とかは厳しいかもしれないです。

森…自分を捨てて別人のようにハイテンションでいったほうが家族にならずすいかも。

工藤…私はそれが難しかったから最初の週間はすごくストレスでした。

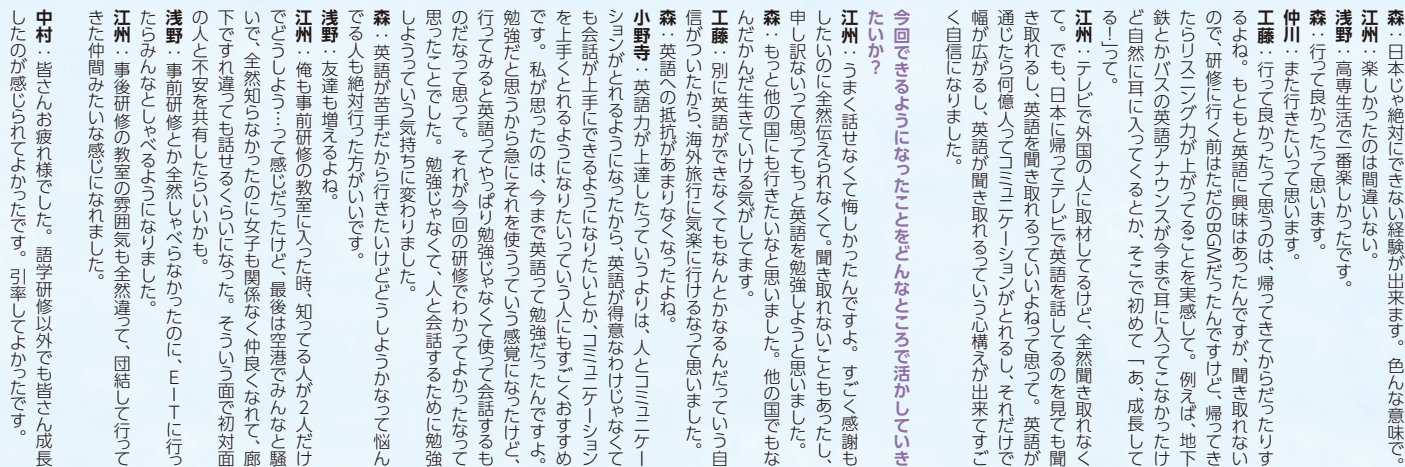
小野寺…「あなたシャイじゃないからすぐいいよって言われまして。その家は6、7人受け入れたことがあったみたいなんですけど、「みんなシャイで全然喋らなかつたけど、あなたはシャイじゃないしすごく喋るからいいわ」って褒められました。

浅野…私の家も年中ホームステイを受け入れたりしていて、私たちは結構話してたんですけど、今までの子たちは「飯中に携帯をいじったりとか、あまり喋ってくれなかつたって。そののちお父さんも日本語の勉強を欲していた時期だったらしくて余計に僕たちにはもう字が勢いが少しかつた。だからたくさん話しかけて欲しかった。君たちはいっぱい話しかけてくれるから僕たちは嬉しいし、もっと教えなくなる。」っていう感じのことは言われました。

江州…話しかけても伝わるし、最悪のGoogleがあるから、話さないでいうのがマジで面白くないし、部屋にいるのと家族とリビングで話すのとじゃ全然価値が違っなと思って。携帯持つて突っ込んで来いって思いました。

仲川…最初にホームステイ先の人に「I can't speak English」って言ったら感じが悪くとられちゃうから、今勉強してる途中なんですとか、勉強し始めたんですって言い方の方がいいと思うます。

他に話したかったのは、



新年のご挨拶

2020年を迎え、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、令和元年として気持ちも新たに様々な活動に取り組まれた方も多かったのではないのでしょうか？私は、10月1日着任直後に高専祭、高専ロボコン全道大会など、新たな経験の連続に圧倒されながら新年を迎えました。その中で、学生と教職員が一致団結して熱心に取り組む姿に感動し、苫小牧高専の未来に確かな手ごたえを感じております。

さて、2020年は東京オリンピックが開催されます。前回の東京オリンピックは1964年10月10日に開会式があり、私は小学校1年生でした。まだ、カラーテレビが発売されたばかりの頃で、道北の小さな町に住んでいた私にとって、遠く離れた東京で開催されるオリンピックは別世界の出来事のようなでした。そして、2020年10月10日は高専プログラミングコンテスト（プロコン）の全国大会が苫小牧市民会館において開催されます。プロコンは、ロボコンに並ぶ高専の一大イベントであり、全国から1,000名を超える関係者が集まり、オリンピックに負けない熱戦が繰り広げられるものと期待しています。



苫小牧工業高等専門学校校長 小林幸徳

います。確かに、技術革新によってユーザーのように全く新しいライフスタイルも誕生していますし、AI技術の進歩によって自動運転車の登場も時間の問題と言えるでしょう。しかし、仮想現実だけでは生きていけないことは明らかであり、実社会を機能的かつ本質的に豊かにしていくのは確かな基盤技術に支えられた「ものづくり」ではないのでしょうか？

高専は、そのような基盤技術によって我が国の極めて多様な産業を支える人材を育成しており、高専出身の技術者なくして科学技術立国の持続的発展は成し得ません。最先端の情報技術を活用して高い質の教育を実現し、世界を身近に感じながらグローバルに活躍できる人材を育成するために、教職員一同が日々全力で取り組んでおります。2016年度に開設した創造工学科は、2020年度に5年生を迎え、いよいよ卒業生を輩出します。協力会の企業の皆様方のお力添えによる、様々な教育プログラムによって育った学生達がどのような未来を作り上げていくのか、将来が本当に楽しみでなりません。社会で活躍されている先輩方とのコミュニケーションは、単に技術を身につけるだけではなく、人間性や人格までも形成する絶好の場となつているものと確信しています。

Society5.0時代の中核となる若き技術者が苫小牧高専から世界へ羽ばたくことを祈念して、年初のご挨拶とさせていただきます。

新寮長 創造工学科 都市・環境系4年 奥河優斗

この度、蒼冥寮の寮長に就任しました奥河優斗です。私は低学年の時に寮生活の中で感じていた気になる点の改善を図り、これまでの様々な活動を通して培ったリーダーとしての経験を活かしたいという思いから寮長に就きました。また、低学年の時に憧れていた先輩が寮長だったことも大きく影響しています。

新体制となった寮では、その時代に合わせた新しい取り組みや規則の追加、これまで先輩方が守ってきた寮の伝統を守りつつ1年生から5年生すべての寮生が快適に暮らせる寮づくりを目指します。さらに勉強面はもちろんのこと、せっかくの大人数が集まる場所なので寮祭や春・冬季体育大会、予備会などの行事に力を入れ、様々なイベントを通して全学年が一体となり物事に取り組むことで親交を深めていきます。

私個人としては、寮長という気難しいイメージを払拭し、親身で大勢の意見を聞いて課題解決に取り組むことを常に念頭に置き実行することを心掛けます。さらに寮の組織である寮生会は後輩が多いため、フォローしながら全員と協力していきたいと思ひます。

一年という短い期間ですが、よろしくお願いします。



新学生会長 4年2組 相藤優輝

この度、新しく学生会長を務めます相藤優輝です。ここでは学生会執行部の活動内容について説明させていただきます。

私たち学生会執行部は体育大会や高専祭などの行事の準備・運営を行っています。学生会執行部が中心となって活動することもあります。各実行委員会の補助をすることもあり、反省と改善を繰り返し、毎年、皆さんが楽しめる行事になるように取り組んでいます。

また、学生生活を過ごしやすいものにするために、定期的に評議会を開いたり、意見箱を設置したりして、各クラスや個人からの意見を集約しています。これらをもとにして、学生の意見・要望を直接校長先生に伝え、検討していただく校長懇談会があります。その他には学生総会があり、一年間の活動計画や予算などを決定します。

今年は、東京オリンピックの影響により、去年と比較するとテスト日程が大きく変わっています。行事の準備・運営等で大変なことがあると思いますが、学生会執行部の仲間や各実行委員会と協力して、学生全員がより良い学生生活を送っていただけるように努力していきたいと思ひます。一年間よろしくお願いします。



新寮長 創造工学科 都市・環境系4年 佐藤七海

この度、楓和寮の寮長に就任しました都市・環境系4年の佐藤七海です。

楓和寮では出身地、年齢、趣味などが異なる女子学生が一緒に生活しています。中学校を卒業してすぐ親元を離れ、集団生活に加入することを不安に思うことも少なくはありません。高専の5年制という少し特殊な環境に身を置くことで、周りの高校生、大学生との違いに悩まされることもあると思ひます。しかし、周りには同じ道を通った先輩や、気軽に話の出来る友人がいます。そういった先輩後輩間、友人間での繋がりを大切にできるような寮にしていきたいと思ひます。



また系の異なる学生や育ってきた環境の異なる学生と関わることは自らの見識を広げることに繋がります。知らない知識を持った人と交流することは自分を成長させる上でとても重要なことです。学生でいられる貴重な5年間、寮生活という貴重な経験が無駄にしないよう、専門的な勉強だけでなく、マナーやコミュニケーションなどの社会勉強ができるように全力でサポートします。寮長として少しでも多くの女子寮生が暮らしやすくなるように努めます。一年間よろしくお願いします。



今年の高専祭を振り返って

学生主事補（学生会担当） 佐々木幸司

第55回高専祭は、「高専坂55」というテーマのもと開催されました。テーマから分かるように本校にとって55回目の高専祭になりました。テーマは、今人気のアイドルグループ乃木坂46と関連付けて学生が考えたものです。苦小牧高専生みんなで力を合わせ「成功」という大きな道に向かって駆け上って行きたい、という願いが込められていました。

初日は天候に恵まれず屋台は途中で閉店になり、野外ステージも行うことはできませんでした。

しかし2日目は、初日を挽回するような盛り上がりになりました。さらに、今年はテレビで見かける2組の芸能人を迎えて行われ（初日：「さらば青春の光」、2日目：「十文字幻斎」）、芸能人と同じ舞台上に上がることができた学生もいました。

高専祭を実施するにあたって、多くの皆さまのご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。来年は今年の反省を踏まえ、より良い高専祭になるよう、学生はすでにアイデアを考えています。来年も是非お越しください。

高専祭



令和元年度 保護者懇談会の実施報告

教務主事補 大橋智志

令和元年11月1日（金）に実施いたしました保護者懇談会は、ご多忙の中にもかかわらず648名（当日以外に懇談した数は137名、出席率67.4%）の保護者のみなさまに来校いただきましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。当日の懇談では、はじめてクラス担任と直接顔を合わせた保護者のみなさま、または5月に実施いたしました授業参観日のクラス懇談会以来、ご子息の学校生活や学業成績の状況も含め、短い時間ではありましたが情報交換・情報共有ができましたでしょうか？

保護者懇談会では第4学年の保護者のみなさまを対象として、各専門系教員による進路説明会（午前・午後の計2回）も併せて実施いたしました。各専門系における就職および進学状況をご確認いただき、ご家庭での時間の中でも進路選択に関する話題を取り上げていただけますと幸いです。また、今年度（令和元年9月30日時点）での求人会社数は2,926、求人数は3,510となっており、求人倍率では27.9%と非常に高い状況が続いています。企業の人材不足は今後も続くことが予想され、産業界からの高専生へのニーズは高く、近年は製造業のみならず情報通信業、建設業、インフラ、コンサルタント等の就職も増加しています。

文部科学省中央教育審議会における第3期教育振興基本計画では、2030年以降の社会を展望した教育政策として、新時代の到来を見据えた次世代の教育の創造のため、「超スマート社会（Society 5.0+）の実現」、「人口減少・高齢化などの地域課題の解決に向けた「持続可能な社会教育システム」の構築」といった取り組みが、初等中等教育機関から高等教育機関までを通して進められています。高

専につきましてもSociety 5.0で実現する社会に必要なとされる基礎技術について従来から教育されておりますが、今後は、経済発展と社会的課題の解決を両立するため、医療・介護・福祉・農業・水産業、防災、エネルギーといった分野での取り組み強化が予想されます。苦小牧高専の教職員につきましても、今まで以上に本校の教育・研究の改善と推進に取り組んでおり、保護者のみなさまの率直なご意見を頂戴し、より良い学校運営に繋げたいと考えております。最後に、今後とも本校および担任との連携を密にし、苦小牧高専における教育・研究、学校・寮生活等のご理解ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

Society 5.0+ 引用：内閣府科学技術政策Society 5.0
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
 Society 5.0とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において日本が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

保護者懇談会



高専ロボコン2019北海道地区大会・全国大会

全国の高等専門学校がロボットの製作を通じて技術力を競う「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」。今年度は10月27日（日）に本校第1体育館にて北海道地区大会、11月24日（日）に東京・両国国技館にて全国大会が開催されました。

高専ロボコン2019北海道地区大会・全国大会報告

ロボットテクノロジー部副部長 高専ロボコン出場Aチームビットクルー 電気電子工学科5年 泉 勇輝

今 年度の競技課題は「らん♪ RUN Laundry」。競技フィールドの台上に無造作に置かれた洗濯物である本物のTシャツ・バスタオル・シーツを、2台のロボット（手動ロボット（遠隔操縦）・自動ロボット（全自動））が回収して、設置された3本の物干し竿に干していく競技です。物干し竿にはそれぞれの洗濯物を干す位置を示すための黄色いエリアが指定されていて、Tシャツはハンガーを使って、バスタオルとシーツは直接、黄色いエリアに干すことで得点になり、競技時間2分30秒間で得た点数の高いチームが勝利、同点の場合は干された洗濯物の「全体的な美しさ」の審査員判定によって競技の勝敗が決まります。

北海道地区大会では、本校からA・Bの2チームが出場しました。

Aチーム「トマイ・オマイ」は、新田(3-4)、秋田(3-4)、下牧(4-4)がメンバーのチームです。手動ロボットの「トマイ」は、まな板のような板を動かして掻き込むことであらゆる洗濯物を回収し、“ボールねじ”という機構を用いてTシャツのハンガーを竿にかけられるロボットです。自動ロボットの「オマイ」は、器用に折りたたんだバスタオルを竿の上から落とすことによって竿に干すことができ、シーツの端を洗濯ばさみによって竿に固定し、横方向に移動することでシーツを展開して竿に干す機能を持ったロボットです。

Bチーム「ディ・トロケット」は、石原(J5)、大滝(4-4)、平間(2-4)がメンバーのチームです。手動ロボットの「ディ・トロケット」は、洗濯物を抱き上げることによって回収し、ロボットの移動とアームの上下移動によってTシャツのハンガーを竿にかけます。自動ロボットの「ラ・ヴァンデリア」は、四隅に設置した上方に展開するアームの先端にある、人間の手がスナップを利かせるような独自の機構によってバスタオルとシーツを竿にかけられるロボットです。

地区大会ではAチームは予選リーグを1位で通過したものの、決勝トーナメントの準決勝で、マシントラブルによって惜しくも敗れました。Bチームは予選リーグで1勝1敗の結果でしたが、得失点差により決勝トーナメントへ進出することは叶いませんでした。

地区大会優勝は逃しましたが、Aチームは高所からバスタオルを落として竿にかけるというアイデアが評価され、審査員推薦を頂くことができ、3年ぶりの全国大会出場を果たしました。

全国大会では、初戦で大分高専と対戦しましたが、手動ロボットの無線通信の混信が原因で制御不能となり敗北しました。このような結果になりましたが、様々な他高専のロボットを実際に見学して技術交流をすることができ、多くを学ぶことができました。

自分にとって最初で最後の全国大会はこのような形で終わりましたが、今の2年、3年、4年生達は、今年の経験を糧に上へと行けると信じています。応援してくださったOBや樽前会の方々、家族や学校の仲間達、指導してくださった先生方、体育館の使用に協力してくださった運動部の方々、会場設営を手伝ってくれた補助学生の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。これからも暖かい声援をよろしくお願いします。



今年の北海道地区大会（地元開催）を通して

ロボットテクノロジー部部长 高専ロボコン出場Bチームリーダー 情報工学科5年 石原 颯

私 は今年、出場チームのリーダーとして、ロボットが動くために必要な制御や整備を担う中核の立場にいました。そして、北海道地区大会の開催校の部長として、開催校を代表する責任を重く感じていました。

『今年こそは全国大会まで駒を進めないといけない。』

部内でも気持ちはまとまっていた。3年ぶりの全国大会進出へ向けた活動が始まりました。

ロボットコンテスト、通称ロボコンは全国8つの各地区で毎年、開催校を変えて大会を行っています。北海道地区では、釧路、函館、旭川、苫小牧の4校の持ち回りでいきます。4年前、私が1年生の時に開催された苫小牧での大会では、準優勝という結果を残し、地区大会優勝の目標には届かなかったものの良い結果で終わることができました。それでも、先輩方の「優勝したかった」という言葉が今でも忘れられないほど耳に残っています。そこから、私は「誰かに印象強く残る」ロボットの製作を目指してきました。あれから4年という期間を過ごし、5年生になり、再び苫小牧での大会を迎えました。

今年は、Aチームは地区大会での優勝、Bチームは唯一無二のアイデアで勝負し、「アイデア賞」を目指してロボットを製作してきました。Bチームとして、どんなロボットなら競技が行えるか、そこに「アイデア」と「魅力」をどこまで詰められるか、この2点に重点を置いて活動してきました。

地区大会の直前、高専祭で行われたロボット展示では、多くの皆様に「頑張してほしい」「期待している」と激励の言葉をもらいました。

そして10月27日、北海道地区大会が開催されました。試合中には様々な方の応援と歓声を私は感じました。応援してくれている皆様が、楽しんでくれているとも感じていました。大会の結果としては、Bチームは予選リーグ敗退と力不足を痛感する結果となってしまいました。Aチームは審査員の推薦で全国大会へ駒を進めました。

私は今年の大会を通して、様々な人の期待に応えることの難しさ、そしてロボコンの楽しさを感じています。それは技術力なのか、強さなのか？それはアイデアによるものなのか、大きな気持ちなのか？私には今でもわかりません。答えは人それぞれだと思います。

最後になりますが、私達を応援してくださった皆様、少しでもロボコンを楽しんでもらえましたでしょうか？皆様が少しでも「面白かった」「楽しかった」と思ってもらえたならば、私は幸せです。



第3学年 道内工場見学旅行

私 たち都市・環境系3年は、日本高圧コンクリート株式会社、新桂沢ダム、京極発電所の3ヶ所を見学させていただきました。

見学先では、現場での活動内容や就職のことなどについてお話を聞くことができました。また、質問に対しても丁寧に答えて頂きました。どの見学先でも、最新の技術を活用してとても有意義な時間を過ごすことができました。これほど多くの現場を見学する機会はめったにないため、とてもいい経験になりました。将来働くことのイメージをつくることもできました。

今回の見学旅行を通じて、進路に関する視野を広げることができました。今回の経験をこれからのことに活かしていきたいと思います。



3年2組
林 和哉

私 たち機械系は北海道電力株式会社石狩湾新港発電所、北海道旅客鉄道株式会社、パナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社、王子製紙株式会社苫小牧工場の4ヶ所を見学させていただきました。どれも私たちの暮らしに深く関係しており、特に普段見ることのできない紙の作られ方などはとても印象に残りました。その他にも大きな施設や様々な技術を見ることができ、とても貴重な経験になったと思います。

今後進路選択を控えている私たちにとって、実際の現場を見て働いている方々の声を聞いたことはとても有意義なものとなりました。今回学んだことを無駄にせず、進路選択だけでなく今後の生活にも生かしていけるようにしたいです。



3年1組
小澤 恵太



今 回の工場見学ではパナソニック、北ガス石狩発電所、NHK札幌放送局、出光興産北海道製油所を見学しました。

特に印象に残ったのはパナソニックでした。パナソニック千歳工場ではiPhoneなどに使われる熱放出シート等を生産していました。人事の人からは生産ラインや入社してからの主な業務内容、企業が求める人物像などを教えて頂きました。また、先輩社員の方の進路を決めたきっかけや、入社してからはできない学校でやった方がいいことなども教えていただきました。

全体を通して、就職してから働く際に学生のうちに勉強したことも大切だが、就職してからその仕事について身につける力も大切だということが分かりました。資格などもそれぞれの企業で求められるものは違うので学生のうちは今勉強していることに関係する資格の勉強を頑張りたいと思いました。



3年4組
森山 碧月



私 達は1日目に、苫東厚真発電所、日本血液製剤機構、2日目に、北海道住電精密株式会社、サッポロビール北海道工場を見学しました。

苫東厚真発電所では、私達の何倍もあり轟音を轟かせているタービンの外観、硫黄酸化物や窒素酸化物の除去装置の仕組みを見学してきました。普段、発電所などをじっくりと見る機会はないのでとても貴重な体験をすることができました。

日本血液製剤機構では、運ばれてきた血漿から血漿分画製剤を製造するラインや、運ばれてきた血漿を保存する巨大な冷凍庫などを見学してきました。本校にも献血車が来ますが、血液がその後どのような使われ方をされているのかを詳しく知らなかったの、知ることができて良かったです。

クラスでまとまっていくことも含め、実際の現場を見る機会は中々あるものではないのでいい経験になったと思います。



3年3組
長岡 佑哉

私 たち3年5組は、I・TECソリューションズ、エプソン、NHK札幌放送局、北海道大学を見学してきました。

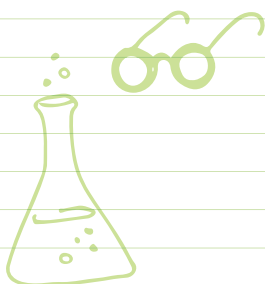
現代社会において情報系の技術はこの会社でも使用されていますが、一言に情報系の仕事と言っても具体的な内容は考えにくいかもしれません。だからこそ実際に見学に行き、自分たちが学んでいる技術がどのように使用され、社会の為にどう使われているのかを知ることが出来ました。

情報セキュリティやアプリケーション開発、実際に私たちが使用しているテレビやパソコンなどに使用されている部品を開発するなど、情報系の会社であっても、様々な分野の技術や知識が合わさって製品を開発していることが学べました。

進学か就職かを悩む3年生にとって、実際に見学することで進路を決断するための良い経験になったと思います。



3年5組
伊勢谷 凌一



第4学年

総合研修旅行

4 年2組は、中日本高速道路(株)のコミュニケーション・プラザ川崎、新横浜のシールド工法によるトンネルの工事現場、東京オリンピックの選手村整備区画、メトロ後楽園作業所、滝野川作業所、そして先日の大雨により大きな被害を受けた多摩川を見学しました。

今回の見学先では、道路管理の様子など高速道路を支えている場所や、オリンピック後の選手村の都市計画、地下鉄のトンネルなどの土木工事の現場をそこで働いている方のお話を交えて知ることができました。

多摩川は、大雨による被害の状況がまだ生々しく残っている状態で、減災の技術によって被害を最小限に食い止めることができる時が早く来てほしいと強く思いました。

今回の研修で経験できたことを進路選択の際の参考にしていきます。



4年2組
西村圭佑



私 たち機械系4年は、サントリースピリッツ(株)大阪工場、パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ、ダイキン工業(株)堺製作所臨海工場、東レ(株)滋賀事業所そして住友電気工業(株)伊丹製作所の5社に見学に行きました。生産職、研究職などさまざまな種類の業界について知ることができ、大変勉強になりました。

BtoBという観点ではダイキンの空調設備が特に印象に残りました。お客様向けに製品を販売すると同時に、自分たちの製品で働きやすい職場づくりに励んでおり、社員を大切にしている会社なんだと思いました。就職希望の企業を選ぶにあたり、仕事内容や福利厚生はもちろん、快適に働ける現場という点も大切であることに気付かされました。



4年1組
織本彩花



電 気電子系の総合研修旅行では、電源開発磯子火力発電所、SUBARUテクノ、三菱電機ビルテクノサービス、富士電機川崎工場、キャンノンの5社を見学しました。この研修旅行を通して、電気電子系の就職先の幅広さを感じました。人の身長を大きく超える巨大な装置から、手の中に収まる微小な機器まで、すべて電気電子技術が関係し、現代人の営みに欠かせないものばかりであるということや、自分たちがその一端に関わっているということを再認識できました。

また、3日目午後の自主研修では、研修先を自由に決められるため、私は進学志望先の大学を訪問しました。そこで学生の方から大学生活等について教えていただき、今後の進路に向けて大変貴重な機会を持つことができました。



4年4組
佐藤颯空



私 たちは、11月5～8日の4日間、東京近郊の工場見学をしてきました。

初日は、樽前会関東支部の皆様との交流会、2日目からは、1日2企業に訪問し、会社概要を説明していただいた後、工場内を見学しました。

私は、最終日に訪問した昭和電工(株)さんが特に印象的でした。

昭和電工(株)川崎営業所では、収集したプラスチックゴミを分別し、選別したプラスチックを化学的加工により、カーボン製品や、セラミックス製品にリサイクルする事業を展開しています。

化学技術が社会に貢献している様子を知ることができ、これからの持続可能な社会の未来を担う会社に感銘を受けました。

また、前泊・後泊で浅草を散策したり、山梨県の富士急ハイランドで遊んだり、ディズニーランドに行ったりと、研修旅行のほかに友達との楽しい思い出がたくさん増えました。

今回の研修旅行の経験を、進路決定等に活かしたいと思います。



4年3組
滝本彩乃



私 たち情報科学・工学系4年は道外研修旅行で、アクセンチュア株式会社、富士通川崎工場、日鉄ソリューションズ株式会社、情報通信研究機構(NICT)、NTT情報ネットワーク、NHK放送技術研究所の6社に加え、苫小牧高専同窓会である樽前会関東支部の方々からお話を伺いました。

企業見学では、日本の標準時を計算しているコンピュータ、旧世代のコンピュータの動作など、普段見ることはできないものを見学することができました。見学以外にも、様々な企業の業務内容や開発方法を聞くことができたので、就職を考えるにあたって私たちが入りたい企業がどのような企業なのかを決定する手助けとなりました。

樽前会の先輩方には、様々な進路のお話を聞き、私たちが本当にやりたいことを進路にする勇気を貰いました。



4年5組
手塚健太



①e.TEAMANA
東京都大田区

②9月2日(月)~9月6日(金)/5日間

③もともと航空業界に興味があり機械系を選んだこともあって整備士を間近で見て学ぶことができるこの受け入れ先を選びました。また整備作業を実際に体験できるところにも魅力を感じました。

④グループワークがあるという話を聞いていたので、うまくコミュニケーションが取れるか不安でした。皆さん話しやすい方ばかりで心配はいりませんでした。

⑤実際に作業をさせていただいたのは航空機のタイヤ交換をはじめとした航空機整備作業の体験でした。

⑥先述させていただいた整備作業です。タイヤ交換作業なども印象的でしたが、それ以上にボルトやナットを止める作業が一番心に残ってます。あんなに大きな空を飛ぶ飛行機もこのような細かい部品が集まってできていることに改めて驚きました。

⑦特にありません。自分ができる最大限のインターンシップができたと思います。

⑧社員の方と一緒にインターンシップに参加した他高専の学生との会話が楽しかったです。プライベートの話ももちろんのことですが、将来の進路について話せたのもよかったです。

⑨実際に企業に行って通常の見学よりも深いところまで見ることができ、将来のキャリア設計において非常にいい経験になったと思います。また、同じ業界に興味を持った同年代の友人を持てたことも非常に大きなものとなりました。

⑩就職の前に企業を見ることができる、もしかすると学生生活で一回しかない本当に貴重な機会だと思います。いい経験にするためにもインターンシップ期間中は積極的に社員の方に質問したり、友人とコミュニケーションをとったりその時にしかできないことがいっぱいあるので、集中して濃い時間できるように頑張ってください。



4年1組

高田洋平

インターンシップ Q&A

- ①インターンシップ先の社名と所在地を教えてください。
- ②インターンシップの日数と期間は?
- ③その受け入れ先を選んだ理由は?
- ④行く前に不安だったことは?
- ⑤受け入れ先でどんな仕事をしましたか?
- ⑥振り返って特に印象に残っていることは?
- ⑦今だから言える失敗談は?
- ⑧楽しかったことは?
- ⑨インターンシップで得たものは?
- ⑩後輩へのアドバイスは?

①花王株式会社 和歌山事業所
和歌山県和歌山市

②8月26日(月)~8月30日(金)/5日間

③大手企業で働いている人たちの話を直接聞きたかったこと、実際に働いている現場を見てみたかったからです。

④企業の人としっかり話ができるかどうか不安でした。また、初対面の人と複数人で共同生活をするということも少し不安でした。

⑤セメント分散剤の研究開発をしました。開発中の分散剤を様々な割合で混合し、コンクリートの粘度を測定する実験を行わせていただきました。

⑥研究所と工場が併設されており、事業所の規模に驚きました。食堂のご飯もいろいろな種類があり、聞かせていただいたお話から福利厚生などもとてもしっかりしている印象を受けました。

⑦まずいので言えません。

⑧大企業の実験室で実際に実験をさせていただいたことが楽しかったです。実験で得られた結果から起きていることを自分で考察し、さらに実験をしていく過程が楽しかったです。

⑨一つの企業は多くの人がいって成り立っていることが分かった。社員さんから話を聞いて、その一員として働くことに大きな責任があるが、やりがいのあることだということが分かりました。

⑩就職したい会社にインターンに行くこともできるので、4年生に入ったころにどのようなことをしている会社で働きたいのかということは考えておくべきだと思います。インターンでは実際に働いている人と、数日間接することのできる数少ない機会なのでぜひ行ってみたいと思います。



4年3組

大西 漠

①株式会社メイセイ・エンジニアリング
北海道室蘭市

②8月26(月)~8月30(金)/5日間

③ブラックボードでインターン先を探していて近場で川に行けるところが良いなと思っていました。じっくり探していると室蘭で実習内容に河川調査がある会社があったのでこの会社になりました。正直なんとなくで決めました。(笑)

④数えだしたらきりがありません。中でも特に不安だったことは①会社の場所が曖昧だったのできちんと辿り着くことができるか②自分は仕事をこなすことができるのか③現場で迷惑をかけてしまうのではないかとこの3つのことです。

⑤①室蘭市内の社会資本施設の見学②橋梁点検③多自然川づくりの追跡調査の主として3つの仕事をしました。

⑥仕事をしている中で、土木の仕事はチームワークが非常に重要だということがわかりました。何人もの人が協力し合って仕事を行っていて一人でできる仕事はないと聞いたことが特に印象に残っています。

⑦夏休み期間で規則正しい生活をしていなかったため、説明の時に寝かしてしまったことです。

⑧昼休みの時の新入社員の方々と雑談や、現場の帰りにジェラートやソフトクリームを食べたことです。基本的になにかを食べている時ですね。(笑)

⑨社会人としてのマナーや人と協力すること等、得るものが非常に多かったです。またバイトとは違いお金を稼ぐ大変さ、土木の仕事は規模が大きく人の命を預かっているということをもっと知ることができました。

⑩行ってみると、自分の今、している勉強がどこでどう使われているか知ることができます。もし、今勉強していることに興味がなかったとしても、インターンで実務に触れてみて興味が湧いて来るかもしれません。社会勉強になり視野も広がってくると思うので行っておいで損はないと思います!



4年2組

内山竜暉



① パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 北海道社
北海道札幌市

② 8月19日(月)~8月23日(金)/5日間

③ 私は、エンジニアリング業界における「保守・運用」に興味があり、パナソニックさんの実習内容が保守・メンテナンスであったからです。

④ 自分の知識が他の実習生に比べて浅いのではないかと、実習先で会社の雰囲気になじめるかどうか、どういったシステムの保守・メンテナンスをするのか、と不安でした。

⑤ 監視カメラ、電力やネットワーク管理装置など、民間の企業や自治体が導入しているシステムのメンテナンス・点検を行いました。

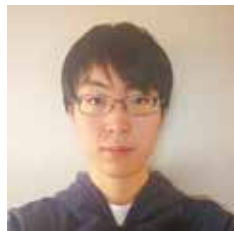
⑥ 現場で、予定していた業務を行うことができず、代わりにソフトウェアの開発・設計・保守に関するお話を伺ったことです。学校で学んだ知識がシステムに活かされていることを、稼働中のシステムで目の当たりにし、理解を深めることができました。

⑦ 3日目の昼、社員の方と食事に行った際、注文した料理の量が想像以上に多く、食べ終わるまで時間がかったことです。社員の方は、意外にも食べ終わるのが早く、なおさら焦りました。

⑧ 現場へ移動中、車内で担当社員と、働くにあたっての心構えや目標など様々なお話をすることができました。また、高専出身の方と学生時代のお話で盛り上がりました。

⑨ ハードウェア、ソフトウェアという2つの保守において、お客様にサービスという無形の価値を理解してもらうこと、お客様の要望に応じてソリューションを行うという共通の心構えが大事であることです。

⑩ インターンシップに参加する際は、「何を学びたいのか」といった参加目的を明確にし、質問事項はあらかじめ考えておくこと心構えが変わり、社員との会話も進みやすくなります。また、自分のことや将来について考えたり、企業について調べたりする良い機会になります。行って損はないので積極的な参加をお勧めします。



4年5組

藤井友祐



① パナソニック株式会社 アプライアンス社
滋賀県草津市

② 8月26日(月)~8月30日(金)/5日間

③ 家電製品に特化した会社に興味があったため。また、大手企業の雰囲気を知ることができたため。

④ 同じ専門分野の高専生が集まる実習だったため、周りのレベルについていけないか不安でした。

⑤ 身近な家電製品(ドライヤー)の分解・組立、他社比較、品質工学についての座学・実習。

⑥ 多くの社員の方々とお話しさせていただいたことがとても貴重な体験でした。特に高専本科卒で入社2、3年目の社員の方々と懇親会を開いていただき、普段聞けないお話を詳しく聞くことができ、大変参考になりました。

⑦ 北海道から傘を持って行ったのに、傘をホテルに置いてまま出勤したら退勤するころには大雨で、折りたたみ傘を買わざるを得なくなったことです。

⑧ ほとんどが関西や中国・四国の学生だったため、方言が新鮮でしたが、沢山友達ができ、一緒にご飯を食べに行ったり、休憩時間に色々な話ができとても楽しかったです。

⑨ 会社の雰囲気、各部署での業務内容、研究開発における考え方や心構え、視野を広く持つことの大切さなど、5日間とは思えない程たくさんのお話を聞くことができました。また、他高専の時間割や授業科目数のギャップから気を改める機会にもなりました。

⑩ 説明会などでは普段聞けない質問に答えていただいたり、新しい知識を得ることができるので、少しでも興味がある会社があれば絶対に行くべきだと思います。



4年4組

大西まなみ



① いすゞエンジニアリング株式会社
神奈川県藤沢市

② 8月19日(月)~8月23日(金)/5日間

③ 自動車業界に興味があったことと、設計の仕事を体験してみたいと思ったからです。

④ エントリーシートによる選考があったので、受け入れが決まるまでは不安でした。あと、関東に行くのは初めてだったので、暑さに対する不安もありました。

⑤ トラックの配管や配線の設計や、3次元CADとCAEを用いたトラックの部品設計とその強度解析を体験しました。

⑥ 会議見学です。普段の業務の様子とは違った緊張感のある雰囲気が印象に残っています。あと、最終日の成果報告会です。5日間の成果を1時間でまとめなくてはならなかったのが大変でした。

⑦ 配管設計の体験で図面を読み間違えてしまい、プロペラシャフトにパーツを取り付ける様な設計をして、発表した時に他のインターンシップ生に指摘されたことです。

⑧ 他のインターンシップ生と仲良くなったことです。期間中は毎日一緒にご飯を食べに行きました。

⑨ 実習毎に発表会があったのでプレゼン能力が鍛えられたと感じています。また、発表後にプレゼンテーションについて企業の方から頂いたアドバイスは今後の自分にとって大きな糧になったと思います。

⑩ もし気になる企業や職種があるなら積極的に参加するべきだと思います。企業について深く知ることができるだけでなく、就活で有利になる可能性もあります。ついでに単位ももらえるので、インターンシップへの参加は利点が多いです。



電子・生産システム工学専攻 1年

船木優大



① 八千代エンジニアリング株式会社
東京都台東区

② 8月19日(月)~8月30日(金)/10日間

③ 橋梁の分野に興味があり、橋梁では今まで勉強してきた知識がどのように使われているのか、八千代エンジニアリングさんの技術力などを会社の雰囲気と共に学べたかったため。

④ インターンシップ中の業務で、期待された以上のことを発揮しようという目標でいたが、それが実際に実践できるかどうか不安でした。

⑤ 建設コンサルタント会社の位置付けと役割についての講義、耐震設計に関する基礎問題演習、隅田川周辺橋梁調査。

⑥ 八千代エンジニアリングさんでは、国民からのニーズに答え、環境、景観、機能についてより良い提案をするため、社員同士での課題解決に向けたグループワークを積極的に行っており、その姿勢がとても印象に残りました。

⑦ 他のインターンシップ生との交流を深め、情報交換をすることがあまりできなかった。

⑧ 耐震設計では、コンクリートの知識や橋梁の知識を使って計算するため、知識の幅広さも重要であることを理解しました。その分、奥の深い分野であるため、設計をしていて楽しかったです。

⑨ 熱意や会社の雰囲気、技術力を肌で感じることができ、私の今後の進路に大いに参考になりました。また、会社の人との交流を積極的に行うことができ、やりがいや、学生のうちにやっておいたほうが良いことなど、ためになる話を多く聞けました。

⑩ インターンシップでは、自分の分野のプロフェッショナルと話すことができる機会であり、勉強への意欲や、その他の目標に向かうモチベーションを高めることができるので、積極的に行って欲しいです。また、自分が本当にやりたかった分野や、やりたいと思っていたけど実際にやってみると違ったなどの相違を発見できると思います。



環境システム工学専攻 1年

森下傑彦



令和元年度「科学のとびら—苫小牧高専実験教室—」を開催しました

地域共同研究センター長 須田 孝徳

10月12日(土)にイオンモール苫小牧セントラルコートにて、小中学生を中心とする苫小牧市近郊の住民の方を対象として、令和元年度「科学のとびら-苫小牧高専実験教室-」を開催いたしました。

本事業は、地域の小・中学生をはじめとする地域住民に対して、科学に触れる機会を提供し、その楽しさ、面白さを知ってもらうことや、理科離れが叫ばれる小・中学生に、科学への興味を持ってもらう「きっかけ作り」の一助とすることを主目的として実施しております。

北海道でも有数の「ものづくりのまち」として知られる苫小牧市においても、理科離れによる次代を担う理系人材の減少は大きな問題となっています。そのため、幼少期から「見て、聞いて、触ってみる」ことを体験させ、「ものづくり」への関心を持ってもらうことが重要であり、苫小牧高専(地域共同研究センター)の使

命であると考えております。

本事業の内容については、教職員や本校学生による様々なテーマのブースを用意し、レーザー加工でのネームタグや光るスライム、LEDペンライトなどの作成や、iPadを使った暗号解読などを行いました。開催当日は、台風の影響が心配されましたが、朝から多くの方々に来場いただき、1日でおおよそ250名の方に参加していただきました。

参加者のアンケート結果からは、「普段見せることのない顔で子どもが喜んでいました。」「機会があれば積極的に参加したい。」等の意見を多数いただき、大変好評でした。科学への興味を引き出す一助になったものと思われます。

終わりに、本事業に協力していただいた、教職員並びに本校学生には、この場を借りてお礼申し上げます。



冬 季 体 育 大 会 を 終 え て

体育委員長 機械工学科5年 房川 愁

今年度の冬季体育大会は、大きなけがもなく、昨年からたくさんの変更点がありましたが無事に終わることができました。総合結果は、優勝:2年3組、準優勝:4年2組、第三位:2年1組となりました。

今大会を振り返ってみますと、どの競技も盛り上がっていましたが、特にバレーボールが大変盛り上がっていました。フットサルでは、激しく体をぶつけながらもフェアプレーで戦っており、バレーボールは各クラスが一致団結して取り組んでいたのではないかと思います。そのバレーボールでは機械5年生が4連覇を成し遂げまし

た。今体育大会は競技に出場していない人たちも見ていだけで楽しめるような体育大会であったと思います。

最後に、今体育大会を開催するにあたって体育委員をはじめ、学生会や先生方、審判の手伝いをしてくれた各部活の方、ご協力本当にありがとうございました。改善すべき点を改善し、今後の体育大会がよりよくなるように頑張っていきますので、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。



「苫小牧高専地域連携シンポジウム2019」を開催しました

地域共同研究センター長 須田 孝徳

12月4日（水）に、グランドホテルニュー王子にて「苫小牧高専地域連携シンポジウム2019」を開催し、苫小牧高専協会の会員企業の方々や、COC+関係者、本校教職員・学生等、約160名が参加しました。

本イベントは、地域・社会に向けて本校が取り組む諸活動の発表や報告等を行い、今後の教育研究活動及び産学連携活動の発展に繋げるとともに、本校と地域企業の連携強化を図ることを目的として実施しているものです。

今年度は「オープンイノベーション」をメインテーマとして北海道ガス株式会社の稲垣氏及び北海道経済産業局の山本氏を招いて講演を実施しました。稲垣氏からは、北海道ガス株式会社が行っているオープンイノベーションの現状や今後の取り組みについて、山本氏からは近年オープンイノベーションの必要性が高まっていることや北海道内の現状等についての講演をいただきました。

オープンイノベーションの事例や北海道の現状・今後の取り組み内容を参考としていただくことで、地元企業（協会企業等）の活性化のみならず、C-baseのマッチング機能をうまく活用して、まずはオープンイノベーションに近い形のものを小さい単位で実践していただくことへの「きっかけ作り」となることを期待しています。

講演終了後、引き続きポスターセッション形式で専攻科1年生26名による研究発表が行われ、参加者からの様々な質問に対して、熱心に研究内容を説明していました。

参加者からのアンケートでも、「オープンイノベーションに関して、まずは小さい規模からでも始めてみたい」、「専攻科1年生の研究発表が興味深かった」等好意的な評価や感想をいただきました。

また、今年度のロボコン北海道地区大会での本校出場ロボットの特別展示も行われ、ロボコン当日の様子を上映したことで、途中で足を止め、立ち見をしている参加者が多く見受けられました。



生物科学研究室

応用化学・生物系の生物化学研究室では、地域連携・地域振興をキーワードに地域の特産品を利用した食品加工・発酵に関するものづくりを研究テーマとしています。苫小牧市、厚真町の特産品にはホッキ貝やハスカップなどがありますが、生物化学研究室では、これらを使った加工食品を試作し、製造レシピを地元企業、市役所や役場などに技術提供することで世の中に製品として送り出していきたいです。また最近では、北海道と沖縄県の北と南のコラボレーションも行っています。これまで世の中に送り出された製品を順に紹介すると、苫小牧産ホッキ貝を使った魚醤油（北寄魚醤油／TSOスタッフ）、沖縄県浦添産シマグワと厚真町のハスカップを使った果実酒（ミュール・ド・ソレイユ／浦添市シルバー人材センター、厚真町）、沖縄県浦添産シマグワを使った果実酢（桑の実のお酢／浦添市シルバー人材センター）があります。これらの試作は研究員のメンバーが卒業研究や特別研究で風味や色調、機能性の維持を考えながら行っており、また、試作品の完成時には連携先の地元企業、市役所、役場の方々や研究室メンバーが製品評価会にて意見交換を行ったりアドバイスを頂いています。現在は、長年取り組んできているハスカップワインビネガー



酢（桑の実のお酢／浦添市シルバー人材センター）があります。これらの試作は研究員のメンバーが卒業研究や特別研究で風味や色調、機能性の維持を考えながら行っており、また、試作品の完成時には連携先の地元企業、市役所、役場の方々や研究室メンバーが製品評価会にて意見交換を行ったりアドバイスを頂いています。現在は、長年取り組んできているハスカップワインビネガー

応用化学・生物系 教授 岩波俊介

ソースの試作品完成に向けて専攻科生と5年生が頑張っている他、チーズ製造用の植物酵素の抽出と諸性質の分析や、トマト工場での収穫前非破壊診断システムの構築を目指したトマトの成分分析なども手掛けています。地域連携・地域振興・食品加工・発酵に興味がある方は、研究室を訪ねに来てください。



研究室紹介



キャリア教育センター活動報告

キャリア教育センター長 山下 徹

キャリア教育センターは平成25年4月に設置されて以来、キャリアプログラムの策定と実施、就職及び進学などの進路支援などに取り組んでまいりました。

本年度実施したキャリア教育の内容から、一部ご紹介いたします。12月4～5日に「ジョブトークI」（1年生対象）と「ジョブトークII」（3年生対象）を開催しました。職業人との会話を通して、自己の職業観・勤労観を考えたり、働くことの意義、仕事をしていく上で必要な力などについて考えよう、というものです。今年も苫小牧工業高等専門学校協力会会員企業から多くの講師の方に来て頂き、4～5人程度の小グループに分かれて中身の濃い話し合いをしていただきました。また12月13日には合同企業研究会が本校第一体育館で行われました。こちらも苫小牧工業高等専門学校協力会会員企業に参加していただきました。今年は過去最多の80社の企業に出展していただき、参加した学生もじっくりいろいろな企業、業界の勉強をすることができました。この他に苫小牧高専卒業生のOB会である「樽前会」のご協力を得て講演会、女子学生のためのキャリアデザイン講話、メイクアップ講座などの有意義なキャリア教育を行いました。

創造工学科1学科体制となってから本年度で4年目となり、来年度はいよいよ新体制となってから初めての学生を就職、進学へと送り出すことになります。キャリアセンターもキャリア教育のより一層の充実を目指します。

学年	目 標	活 動
1年	自己理解と将来の夢の構想、高専での学習や生活の理解と意欲喚起	キャリアデザイン講話、ジョブトークなど
2年	専門的学習への意欲向上と方法の習得、社会に参画する意識の高揚	キャリアデザイン講話、職業人インタビューなど
3年	ライフプランの具体的な構築、進路実現のための自己分析と進路先研究	キャリアデザイン講話、ジョブトーク、道内工場見学など
4年	進路先研究の深化と具体的な進路選択、進路実現に向けた主体的な取り組み	キャリアデザイン講話、各種就活講座、インターンシップ、合同企業研究会など
5年	進路決定と高専生活の総括、進路決定後の次のステージへの準備	キャリアデザイン講話など



合同企業研究会



ジョブトーク

人 事 異 動

○令和元年11月21日付 事務職員・技術職員
【採用】 事務補佐員 三好なつみ (村本充教授研究室)
○令和元年11月30日付 事務職員・技術職員
【育児休業の延長】 総務課総務係長 後藤 悠 介 (令和元年9月1日～令和元年12月31日まで)
○令和元年12月2日付 事務職員・技術職員
【採用】 技術補佐員 野中 響 己 (菊田教授研究室)

○令和元年12月17日付 事務職員・技術職員
【採用】 技術補佐員 水野 琴 美 (村本充教授研究室)
○令和2年1月1日付 事務職員・技術職員
【育児休業からの復帰】 総務課総務係長 後藤 悠 介
○令和2年1月1日付 事務職員・技術職員
【併任解除】 総務課総務係長 佐藤 忠 淳 (総務課課長補佐(総務担当))
○令和2年1月31日付 事務職員・技術職員
【雇用期間の満了】 技術補佐員 水野 琴 美 (村本充教授研究室)

T O P I C S

「苫小牧高専授業見学会」を実施しました

令和元年10月3日(木)、本校において「苫小牧高専授業見学会」を実施しました。

このイベントは中学生と保護者、中学校教員を対象とし、普段の授業の様子を見学してもらうことで、高専生活や本校の教育活動の一端を伝えることを目的としたものです。



当日は苫小牧市内のほか、千歳市・札幌市・恵庭市・帯広市などから116名が参加し、1年生の創造工学Ⅰにおける「Dyson 掃除機分解」や「Python プログラミング」、4年生の英語や5年生の半導体工学などを含む、9つの授

業を見学していただきました。

参加者からは「ありのままのところが見れて、よかったです。」「なかなか見学する機会がないため、とても参考になりました。」「ほとんどの授業が自分にとって興味のあるもので、受けてみたいと思った。」といった感想が聞かれ、当初の目的を達成することができたのではないかと考えています。



「苫小牧工業高等専門学校ミニ・オープンキャンパス」を実施しました

令和元年10月26日(土)、本校にて「苫小牧工業高等専門学校ミニ・オープンキャンパス」を実施いたしました。

このイベントは、8月31日(土)～9月1日(日)にかけて本校で行われた、「令和元年度苫小牧高専オープンキャンパス」にご参加いただけなかった中学生、保護者を主な対象として開催したものです。



今回は本校で開催する、ロボットコンテスト北海道地区大会の前日ということもあり、テストランの様子やコンテストの舞台裏を見学できる「ロボコン見学ツアー」をはじめ、現在各地で行っている「入学試験に開

する説明会」のほか、「体験授業」、「キャンパスツアー」、女子中学生を対象とした「学び体験VOL.Ⅰ」の計5つのイベントを行い、全体で約100名の中学生及び保護者が参加しました。

体験授業でのロボット操作や学び体験での昼食やスイーツ作りをしながらの科学体験、またロボコン見学ツアーでのコンテスト会場の見学など、普段はできない体験を通じて、本校の特色や校内の様子を知っていただく機会になったのではないかと考えられます。



苫小牧高専協力会会員企業合同研究会が行われました

12月13日(金)、本校の協力会会員企業合同研究会が行われました。

当日は会員企業80社がブースを出展し、卒業後の進路選択が迫る本科4年生と専攻科1年生を中心とした220名余がスーツを着用の上、各ブースで熱心に企業のご担当のお話を聞いていました。

学生からは、「色々な職種の話が聞けて良かった」「専門の勉強が他分野の企業にも求められていることが分かり良かった」等の感想があり、就職活動へ向けて意識が高まったようです。

北海道警察サイバーセキュリティ対策本部より感謝状が授与されました

1月30日(木)に、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部から感謝状が授与されました。

本校は2018年4月より北海道警察サイバーセキュリティ対策本部とサイバーセキュリティの人材育成に関して連携協定を結んでおり、この取り組みの一環として、本校情報工学科5年生の卒業研究では苫小牧地区の中小企業のサイバーセキュリティの状況調査や、一般の方々に向けたスマートフォンでのセキュリティ啓蒙アプリを作成し、実機での展示やデモンストレーションを行っています。

また、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部からは本校1年生に対するSNSの啓発講演や本校情報系の学生に対するサイバー犯罪等の講演を実施していただいており、北海道警察と連携してサイバーセキュリティ教育を実施しています。

今回はこうしたサイバーセキュリティ人材育成の取り組みが評価され、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部より感謝状が授与される運びとなりました。

高専通信

vol.153 contents

- | | | | | | | | | |
|---|--|------------------------|----|--|--------------|----|--|---------------------|
| 1 | | 国際交流EIT座談会 | 5 | | ロボコン | 11 | | 科学のとびら
冬季体育大会 |
| 2 | | | 6 | | | 12 | | |
| 3 | | 新年のご挨拶
新学生会長・新寮長の挨拶 | 7 | | 第3学年道内工場見学旅行 | 12 | | 地域連携シンポジウム
研究室紹介 |
| 4 | | | 8 | | | 13 | | |
| | | 高専祭
保護者懇談会 | 9 | | 第4学年総合研修旅行 | 13 | | キャリア教育センター活動報告 |
| | | | 10 | | | 14 | | |
| | | | | | | | | 人事異動
TOPICS |

編集後記



今回の高専通信153号では、令和元年度後半の活動をお届けします。

国際交流活動の一環として行われているニュージーランド・EIT研修の座談会、各種学校行事に関する報告、本校で開催された高専ロボコン北海道地区大会の成果、本校のチームも出場した高専ロボコン全国大会の様子、地域活動の一つである「科学のとびら」などが掲載されています。

国際交流に関しては、昨年以上に活発に学生・教員の活動が行われた1年でした。2月下旬から、2名の専攻科の学生がタイ・カセサート大学でのインターンシップに参加しております。学生たちは、カセサート大学工学部の研究室での研究に取り組むだけでなく、カセサート大学学生との学生国際会議も実施します。次年度は、新たな試みとして、本科1、2年生向けの異文化研修をタイ・カセサート大学で実施する予定です。今後も世界に羽ばたく人材を育成するための活動を広く深く展開していきますので、注目していただければ幸いです。

総務主事補 有馬隆司

[高専通信に関するお問い合わせ先]

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 ☎059-1275 苫小牧市字錦岡443

TEL.0144-67-0213 [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

